

## 編集後記

本号は、International Conference on Physics of Reactors (PHYSOR 2026) に参加された方々に執筆をお願いし、その参加報告をまとめた特集号です。日本から参加された総勢 23 名の方々に、大学教員・学生・メーカー社員・研究機関職員など、それぞれのお立場からご寄稿いただきました。

本号には、執筆者それぞれの立場や経験が反映された、多様な記事が寄せられています。世界の炉物理研究の動向を専門的に論じたもの、これまでの経験を踏まえて会議参加を振り返ったもの、初めての国際会議での奮闘を率直に伝えるものなど、さまざまな角度から会議の様子が描かれており、たいへん読み応えのある特集号となっております。私も今回の PHYSOR 2026 に参加しましたが、ご寄稿いただいた皆様がどのような心持ちで国際会議に臨まれ、研究発表をどのように受け止められたのかを知ることができました。たいへん興味深く、また楽しく拝読し、自分とは異なる視点に触れて多くの学びを得ることができました。

記事の中でも触れられていたとおり、PHYSOR 2026 には各国から多くの方々が集まり、プレナリーでは大会場がほぼ満席となりました。炉物理分野の活況を改めて実感し、驚きとともにたいへんうれしく感じました。その熱気にすっかり浸っていたためか、帰国日にはトリノ空港へ向かう途中で列車を乗り間違え、途中停車のない高速列車に乗ってミラノまで行ってしまいました。引き返して飛行機に間に合うかどうかという瀬戸際となり、ここ数年で最も冷や汗をかきました。高速鉄道の乗務員やタクシー運転手の方々に助けていただき、何とか間に合いましたが、今後は十分に注意しなければならないと反省しております。

ご多忙の中、突然の執筆依頼を快くお引き受けくださり、貴重な参加報告をお寄せいただいた皆様に、心より御礼申し上げます。皆様のお力添えにより、本特集号を無事刊行することができました。

今後とも、部会の活動にご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

令和 8 年 7 月

編集小委員会担当幹事

日本原子力研究開発機構 桑垣 一紀